

幼児・児童・生徒に関する 新型インフルエンザ感染時等の留意点

(北海道保健福祉部保健医療局健康安全室)

1 インフルエンザ脳症に注意しましょう

- インフルエンザ脳症は、インフルエンザウイルス感染による合併症で、発症後の急速な病状の進行と予後の不調を特徴とする疾患です。季節性インフルエンザでは、乳幼児が主体とされていますが、今回の新型インフルエンザでは10歳半ばの中学生のインフルエンザ脳症が確認されています。保護者の方は、次の症状が見られる場合、速やかに医療機関を受診してください。

インフルエンザ様症状（発熱及び咳・のどの痛み・鼻水／鼻づまり）に加え、

- A 呼びかけに答えないなど意識レベルの低下
- B 持続した痙攣や痙攣の発作を繰り返し意識が回復しない
- C 意味不明の言動が見られる（いない人がいると言うなどの幻覚的訴え、意味不明な言葉、恐怖感の訴え、急に怒り出す、泣き出す、大声で歌い出す など）

また、医療機関を受診し、療養中であっても、上記の症状が現れた場合は、かかりつけ医に連絡してください。

- 解熱剤の中にはインフルエンザ脳症の予後を悪化させる成分が含まれていることがある（例：ボルタレン、ポントール及びこれらの製品に含まれる成分が入っているもの）ので、保護者の判断で解熱剤を服用させることなく、必ず医療機関を受診し、医師の指示に従ってください。

2 ウイルス性肺炎に注意しましょう

- 日本小児科学会では、新型インフルエンザを発症した子どもの中で、急激に呼吸困難となる重症の肺炎（ウイルス性肺炎）が起きることがあるので、保護者の方は子どもの様子を注意深く見守るよう呼びかけています。医療機関を受診後、薬を服用していても、次のような症状が現れた場合は、かかりつけ医に連絡してください。

- ▽呼吸が普段よりも明らかに速い、呼吸の頻度が多い（苦しそうにしている）
- ▽息を吸うときに胸の一部が陥没する
- ▽顔や唇が青白くなっている

3 抗インフルエンザウイルス薬の服用中の注意点

- 抗インフルエンザウイルス薬（製品名：タミフル又はリレンザ）は、関連は不明なものの、薬の服用後に異常行動を発現し、転落などの事故に至った例が報告されています。保護者の方は、少なくとも2日間、子どもが一人にならないよう配慮してください。

4 子どもがインフルエンザにかかった時の注意点

●保護者の方

- ・お近くのかかりつけ医にあらかじめ電話をしてから、マスク（保護者の方も）をして受診してください。
- ・可能であれば、自家用車を利用してください。公共交通機関を利用する場合は、マスクをしてください。
- ・医療機関から戻ったら、手を十分洗いましょう。
- ・子どもに処方された薬は、指示されたとおり（最後まで）飲ませましょう。
- ・子どもの水分補給と十分な休息・睡眠を心がけましょう。

●保護者の方（続き）

- ・部屋の湿度（50～60%）にも配慮してください。（加湿器やタオル等の部屋干しなどで）
- ・子どもの様子に異常がないか、見守ってください。異常を認めた場合は、かかりつけ医に連絡しましょう。（夜間などは急病センターに連絡し、指示に従ってください）

●保護者の方又は同居家族の方

- ・子ども（患者）の世話をした後は、手を十分に洗いましょう。患者がさわる部分（電気のスイッチ、ドアのノブ、トイレのレバーなど）も、こまめに拭き取り清掃しましょう。（エタノール製剤や除菌アルコールティッシュなどで十分です）
 - ・可能であれば、患者と別の部屋で過ごしましょう。（食事なども）
 - ・患者に小さな子どもの兄弟姉妹がいる場合は、患者の部屋に行かせないようにしましょう。
 - ・患者と接する時はなるべくマスクを着用しましょう。
- ※患者の衣類や食器は、通常の洗濯や洗浄で十分消毒できます。

●保護者等が妊娠中又は基礎疾患がある方などが同居している場合

- ・妊娠中の方が同居している、肺や心臓などの持病や人工透析や糖尿病などの持病がある方が同居している場合、なるべく患者と接触しないようにしたり、手洗いを励行するなどして、感染予防に努めてください。また、妊婦の方や基礎疾患がある方は、医師の判断により、抗インフルエンザウイルス薬を「感染予防のために」服用することがありますので、かかりつけ医に相談してください。（ただし、病気になる前に薬を服用することで、健康保険適用外の自己負担扱いになりますことをご了承願います。）

4 インフルエンザの予防方法

道民ひとりひとりが、個人でできる感染予防対策を励行することで、感染の急速な拡大や、大規模かつ一斉の流行となることを避けることができます。子どもについては、保護者の方が十分配慮してください。

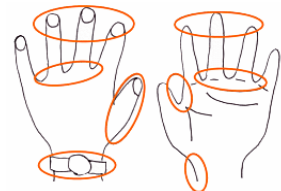
- 学校、職場、公共交通機関の中では、咳エチケットを心がけましょう。
- 人混みへの外出時にはマスクをし、帰宅後にはうがいや手洗いをしっかり行いましょう。
- 食事の前には、うがい・手洗いを。水が使えない場所では、市販のアルコール手指消毒剤も効果的です。
- 必要なとき以外は、人混みを避けましょう。
- 十分な栄養と休養をとりましょう。
- 室内を適切な湿度（50～60%）に保ちましょう。

咳エチケット

- ・咳やくしゃみが出るときは、マスクを着用しましょう。（特に公共交通機関の中）
- ・マスクがないときは、ティッシュなどで口と鼻を覆ってください。（手で覆うと手にウイルスが付着し、その後、吊革や手すり、ボタンなどを触ることで、ウイルスがうつってしまいます。）

手洗いの方法

- ・石けんをよく泡立て、手の平、手の甲、指の間、親指の周り、爪や指先、手首をしっかりと洗いましょう。右の絵は洗い残しが多い場所です。
- ・15秒以上の流水で洗い流し、清潔なタオルなどでふきましょ
- ・帰宅後、食事の前、患者に接触した後など、こまめに洗いましょう



子どもは、**新型インフルエンザワクチンの優先接種対象とされていますが、接種時期や接種場所などの具体的方法は、今後、改めてお知らせします。また、医療機関に受診する前に道庁又は道立保健所に電話をいただく必要はありませんが、電話相談窓口は、引き続き開設中です。（平日 8:45～17:30）**